

新任医師紹介

小山 朋之医師

出身地：神戸市生まれ、倉敷育ち

診療科：内科

抱負：石川病院のチームの一員として患者さんにとってのよりよい方向を提案していきたいと考えています。また地域の開業医さん達との連携を大切にしていきたいと思ひます。

内科認定医

地域連携のお知らせ

地域健康教室について

去る11月10日（土）に第9回地域健康教室を開催しました。今回は「高齢者医療制度」というテーマで石川治医師に話をさせていただきました。お話が日本の現在の政治情勢におよび、何兆円の国家予算等、聞き慣れない大きな単位のお金の話でびっくりすることばかりでしたが、普段聞く機会のない内容に感心の声があがっていました。

次回は1月12日（土）午後1時～でテーマは「メタボリックシンドローム」です。ニュース等でも取り上げられ関心が深い方が多いと思ひますが、薬剤師、検査技師の観点からのお話となります。場所は当院東館1階のリハビリ室です。

今年度は3月8日（土）午後1時～が最終となり、テーマは「福祉用具の使い方」でリハビリの療法士よりお話しさせていただきます。皆さんお気軽にご参加下さい。当院東館1階のリハビリ室で行います。



＝編集後記＝



新しい年が始まり、職員一同一層気を引き締めて取り組んでいきたいと思ひます。皆様どうぞ宜しくお願い致します。



せせらぎ通信

〔第24号〕

〔2008年1月1日発行〕

〒671-0221 姫路市別所町別所2丁目150
☎(079)252-5235 石川病院 広報委員会
発行責任者 事務長 三枝孝弘

地域のために 思いやりと
信頼性の高い 治療・看護を目指す

平成20年新年挨拶

新年明けましておめでとうございます。

2008年の新春にあたり謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

日頃は、ご理解とご支援を賜り、心から感謝申し上げます。

平成20年の干支(えと)は戊子(ぼ・し、つちのえ・ね)、一般的には「ねずみ年」であります。ネズミ年、つまり「戊子；つちのえ、ね」の解釈は「増える、しげる」の意味が二つ重なっており、万事万物が繁栄し、発展して行くよい年です。しかし、物事は繁栄しすぎると、それにともない難しい問題も発生してきます。従って本年はその繁栄と発展の過程の中に一人ひとりが問題意識を高め、問題発生を察知することが必要であります。私心にとらわれ



理事長 石川誠

ることなく、過ぎたるものに対しては「果敢・果決」つまり、対処するための決断を、早くすることであり、実行していく上では「見識と胆識」が求められる、つまり物事の本質を見通す優れた判断力と気力と根性が必要であります。「安心、安全の医療」を心がけ、院長を芯に、より信頼される病院になるよう一層の努力を重ねて参りたいと思ひます。

新しい年が皆様方の幸多い年となりますよう祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。



院長 今脇節朗 【運営方針】

新年明けましておめでとうございます。年頭にあたり、当院の本年の取り組み方針を表明させていただきます。今年のスローガン、

「これでよい、自己判断に落とし穴、相互喚起でミスゼロ達成」

のもとに石川病院として、平成20年の節目の、この1年間の取り組みの重点課題と、めざすべき方向を掲げました。この方針に沿って日常活動を積極的に挑戦していくことを決意しております。

- 1、「患者様の安全第一」をモットーに、日常業務では、報告、連絡、相談、確認を習慣化し、活発なコミュニケーションと緊密なチーム連携で、より安全、安心で質の高い医療を追究する。
- 2、アンテナを高くし、患者様に役立つ院内医療相談体制の充実とともに医療情報の共有化で迅速、適切な対応と地域医療連携範囲の拡充を図る。
- 3、中核的医療施設として、その役割を果たすため患者様から安心と信頼を得る設備機器の充実と、近い将来の医療制度改正に対応できる院内環境整備の促進。
- 4、活動目標を明確に、一人ひとりがP・D・C・Aのサイクルを確実に回し、常に問題意識と、継続した自己啓発が改善意欲を高め、より一層の業務の効率化と仕事の品質レベルを上げ、その成果をIJKで示そう。
- 5、IT技術の積極的活用と、時代を先取りした発想の転換、固定観念に縛られない柔軟な思考で、明日に挑戦する気概を持とう。

以上、皆様の、ご健勝、ご活躍を祈念申し上げ、新年のご挨拶ならびに所信表明といたします。

トピックス 1

冬季を中心に、ノロウイルスを原因とする嘔吐・下痢などの健康被害が多発しています。
ノロウイルスによる感染症および食中毒の発生を防止するためには、ノロウイルスに関する正しい知識と予防対策が必要です。

ノロウイルスって何???

1. ヒトの小腸粘膜で増殖するウイルスです
2. 「ノロ」とは、発見された地名に由来して名付けられています

感染の原因は???

- ノロウイルスに感染されていた貝類を、生あるいは十分に加熱調理しないで食べた場合
- 食品を取り扱う人（家庭で調理する人も含め）が感染していて、その人を介して感染した食品を食べた場合
- 患者の糞便や嘔吐物から二次感染した場合

予防法は???

- ☆ カキなどの二枚貝を加熱する場合は、十分に加熱してから食べる
- ☆ トイレの後、調理をする際、食事の前にはよく手を洗う
- ☆ 手洗いの後使用するタオル等は乾いた清潔なものを使用する

二次感染を予防するために・・・

- ①嘔吐物や、糞便で汚れた衣服類を片付けるときは、ビニール手袋、マスクなどを用いる
- ②嘔吐物や、糞便で汚れた衣服類は他の衣類と分けて洗う
- ③嘔吐物などを片付けた用具、雑巾などは塩素系漂白剤でつけ置き洗いをする

感染予防の基本は手洗いです!!



トピックス 2

嚥下障害について ～まずは食事の姿勢から～



○ 前かがみの姿勢（頸部前屈）が大切

飲み込み（嚥下）の障害がある方に対しては、しばしばギャジアップの

姿勢で食べてもらう場合がありますが、この時の大事なポイントは、「前かがみの姿勢（頸部前屈）」です。頸部前屈は、嚥下反射（ゴックン）が起こりやすくなる、食物が気管に入りにくい角度になる、などの理由により、食べ物が誤って気管に入ること（誤嚥）を防ぐのに有効となります。具体的には、あごを引いてさらにややあごを突出させた位置にするのがコツです。また、車椅子に座っている方に食事介助する場合にも、前かがみの姿勢が大事です。介護者が立ったまま食事を上から介助すると、要介護者も上を向かざるを得ず、誤嚥を起こしやすくなります。一番良いのは、横にすわり同じ目線になって介助をすること。さらに、箸やスプーンの運び方も、自分が食事をする時と同じように、下から持っていくようにします。介護者も座って介助するという点は、ギャジアップの方でも同様です。まずは安全な姿勢から、毎日のお食事を楽しみましょう。



行事紹介

恒例となったボランティアの皆さんによる演奏会ですが、今回は四郷町安田さんご夫妻が、和太鼓を演奏してくださいました。

勇壮な太鼓のリズムと楽しいパフォーマンスに加え、詩吟のご披露までいただき、患者さまのみならず、職員一同も充実した時間を過ごすことができました。

改めまして、安田さんご夫妻に御礼申し上げます。ありがとうございました。

